

## 南ア月報

(2015年3月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

### 【内政】

- 独立選挙委員会委員長候補者の議会承認
- ズマ大統領による国民議会答弁
- チャバネ公共サービス・管理大臣の逝去
- ズマ大統領に対する不信任決議否決
- セシル・ローズ銅像のケープタウン大学キャンパスからの撤去
- バビCOSATU事務局長の罷免

### 【外交】

- イラン諜報活動に関するリーク記事
- ムフェケト国際関係・協力副大臣のスリランカ訪問
- レソト総選挙結果に関するラマポーザ南ア副大統領による会見
- マシヤバネ国際関係・協力相の寄稿文

### 【経済】

- 南ア国債の格付け維持
- 鉱業・製造業の生産量減少
- ESKOMを巡る問題
- メドゥピ発電所初号機(ユニット6)の運転開始

## 1 内政

### ●独立選挙委員会委員長候補者の議会承認

3日、国民議会において、議会内務委員会より独立選挙委員会(IEC)委員長候補として推薦されたマシニニ(Mr. Vuma Glenton Mashinini)氏の任命が、賛成223票、反対127票で可決された。同ポストは、昨年総選挙後の9月にツラクラ IEC 委員長が辞職して以降、空席となっていた。ズマ大統領の特別プロジェクト顧問であったマシニニ氏の任命に対しては、野党各党からズマ大統領と同氏の緊密さを懸念し、反対の声が上がっていたが、与党 ANC が過半数を超える議席数を有する国民議会で可決されたもの。IEC 委員長の任命は、今後、ズマ大統領の署名を受けて決定することになる。

### ●ズマ大統領による国民議会答弁

11日、ズマ大統領は、昨年8月以降施政方針演説に関する答弁を除いて初めて、議会で野党からの質問に答えた。冒頭、野党からの質問を牽制しようとするムベテ国民議会議長と、大統領はヌカンドラ問題を含む全ての質問に答弁すべきとする野党議員の間で、激しい議論の応酬となり、議事進行は1時間以上遅延した。しかし、最終的にズマ大統領はヌカンドラ問題に対する質問

に応じ、「護民官は“返金しろ”とは言っていない、最終的な判断が下されていない中、いつ、いくら返金すべきかを考えたことはない」と述べ、本件に対するズマ大統領自身の対応ぶりについては、最終的な判断を行うよう任命された警察大臣と財務省の判断を待つ必要があるとした。当日、議会および議場周辺には警察官が厳重に配備され、議事開始の2時間前には、私服警察を撮影していたメディアとの間で、いざこざが発生するなど、議会周辺は緊張感に包まれた

#### ●チャバネ公共サービス・管理大臣の逝去

15日未明、チャバネ公共サービス・管理大臣は、リンポポ州・州都ポロクワネ近くの高速度道路(N1)で自動車事故により逝去した。チャバネ大臣は、出身州のリンポポ州で同州教育大臣の葬儀に出席した後、ハウテン州に向かっていたところ、N1上、同方向左側の車線を走っていたトラックがUターンを試み、チャバネ大臣を乗せていた車がこのトラックと衝突、同乗していた警護官2名とともに即死した。トラック運転手は、過失致死の容疑で逮捕された。追悼式典は19日にプレトリア市内で執り行われ、ご遺体は21日、同大臣の出身地であるリンポポ州マラムレにて埋葬され、ズマ大統領他多くの閣僚や要人が出席した。

#### ●ズマ大統領に対する不信任決議否決

17日、野党民主連合(DA)により提出されたズマ大統領に対する不信任決議案が、賛成221票、反対113票、棄権8票で否決された。マイマネDA院内リーダーは、公金によるズマ大統領の私邸警備のアップグレード問題や南アの停滞する経済成長への責任などを取り上げ、ズマ大統領を非難し、これに対抗する与党側と激しい論争繰り広げられた。

#### ●セシル・ローズ銅像のケープタウン大学キャンパスからの撤去

27日、英国帝国主義を象徴するとする学生の抗議活動を受けて、ケープタウン大学理事会は、キャンパス内にある、19世紀英国の支配下でケープ植民地相を務めたセシル・ローズ氏の銅像の撤去に関する採決を実施、賛成181票、反対1票で、銅像をキャンパスから撤去することを決定した。大学広報によれば、右決定は、翌月開催予定の大学評議会において承認される必要がある。鉱山王でもあったローズ氏が寄付した土地に創設されたケープ大学のキャンパスには、同氏の銅像が設置されているが、民主化後20年以上が過ぎた今でも大学職員の大半は白人が占めており、人種差別主義者としても悪名高いローズ氏の銅像は白人支配を象徴するものであるとして、学生が抗議活動を展開していた。理事会での採決を受けて、銅像は板張りで囲まれている。

#### ●バビCOSATU事務局長の罷免

30日、COSATUは特別中央執行委員会を開催し、不正、汚職疑惑にあり、幹部会への出席をボイコットする等挑戦的な態度を示してきたバビ事務局長の即時罷免を決定した。バビ事務局は、中央執行委員会開催前の29日に記者会見を開き、今後 COSATU 幹部会への出席をボイコットすること、辞任により労働者を裏切るようなことはしないこと等を述べると共に、COSATU の財政難を暴露していた。バビ事務局長の罷免を受けて、今後のバビ事務局長の動向、COSATU 加盟組合の動向などが注目されている。

## 2 外交

#### ●イラン諜報活動に関するリーク記事

1日付サンデー・タイムズ紙等、当地各紙は、2月下旬にリークされた南ア国家情報局(NIA)の秘密文書に関する記事を多数掲載した。例えば、同サンデー・タイムズ紙は、同紙が入手した情報及びアル・ジャジーラの報道に基づき、南アの政府高官が、諜報機関とのつながりを疑われる

イラン企業とのビジネスを促進していたことを明らかにした。

30ページにわたるNIAの2010年文書は、イランの国営会社であるイラン航空が、イランの非公式諜報員(NOC:Non-Official Cover)としての役割を果たしていると報告。同文書は、南ア内で活動する前線企業のネットワークや、航空機、軍装備品入手にかかるイラン側の取り組みについてまとめている。

#### ●ムフェケト国際関係・協力副大臣のスリランカ訪問

2日、国際関係・協力省は、ムフェケト国際関係・協力副大臣の2月下旬のスリランカ訪問につき報道発表を行った。同副大臣は訪問中、ウィクラマシンハ首相及びサマラウィーラ外相らを表敬し、会談した。スリランカ政府は、スリランカ特使を務めるラマポーザ副大統領に対し、有機的国内メカニズム確立のロードマップ策定のため、政治的・技術的専門家からなる先遣隊の派遣を要請した。ムフェケト副大臣は、スリランカ側法律専門家とのワークショップにおいて、(アパルトヘイトを乗り越えて国民融和を達成した)南アの経験を共有し、スリランカの全ての関係者が融和の途を進めるよう、南アとして関与を継続していくことをコミットした。

同副大臣滞在中、コロンボにおいて第5回南ア・スリランカ・パートナーシップフォーラムが開催された。同フォーラムでは、貿易・経済関係、運輸、農業、司法、教育、警察及び防衛協力を含む二国間関係のレビューが行われた。なお、右会合において、持続的観光分野での協力宣言及び両国動物園当局間のMOUが締結された他、両国間の経済・貿易関係を発展・強化させるには民間セクターの関与が重要との認識で一致し、5月に南アで開催される南ア国際貿易展(SAITEX)において、合同CEOフォーラムを開催し、両国の経済関係を深化させることが合意された。

#### ●レト総選挙結果に関するラマポーザ南ア副大統領による会見

5日夜、当地主要メディア SABC テレビは、レトを訪問中のSADC仲介人・ラマポーザ南ア副大統領によって行われた、レトの国民議会総選挙に関する記者会見を中継放送したところ、要旨以下のとおり。

(1) SADC仲介人のラマポーザ南ア副大統領は、民意は示されたと述べ、レトが順調な選挙の実施に至ったことを称賛すると共に、SADCは引き続きレトのサポートを続けていくとコミットした。

(2) ラマポーザ南ア副大統領は、選挙後のプロセスとして、憲法の改正を含め、レトが民主主義の繁栄に向けた改革プログラムに取り組むよう促し、その道筋を定めるための関係者による対話を呼びかけた。

(3) ラマポーザ南ア副大統領は、昨年8月30日のカモリ中將による軍事行動事件以来タバネ首相の警護に当たっていた南ア警察について、間もなく南アに帰国する予定であると述べた。

#### ●マシヤバネ国際関係・協力相の寄稿文

26日、南ア国際関係・協力省は同HPにて、マシヤバネ大臣による寄稿文を発表した。主なポイントは以下(1)～(4)の通り。(1)南アはSADC議長国在任の7ヶ月で、SADC6ヶ国で、平和で、信頼性のある、自由で公正な選挙を目撃。SADC諸国の民主主義やシステムが非常に熟している証明。(2) SADCは、レトの憲法上の危機を解決するために、政治的解決に向けて全当事者が平和的に交渉を行う上で、非常に重要な役割を担った。(3)レト、SADC、世界の人々に対し、総選挙が、自由で公正で信頼の置けるものだったというメッセージを伝えることができた。モシシリ首相の就任式で同メッセージは頂点に達した。(4)レト総選挙は成功裡に実施。昨年9月より展開していたSADC監視団は間もなく解散する予定。

### 3 経済

#### <経済指標>

##### ●鉱業・製造業の生産量減少

13日、南ア政府発表の公式統計が示したところによれば、1月の鉱業及び製造業の生産量は減少しており、これは南ア国内の需要薄及び計画停電による影響を示している。鉱業の生産量に関しては、12月に3%減少したばかりであるが、1月には更に4.7%減少した。他方で、製造業に関しては、12月に0.9%上昇したが、1月には再び2.3%減少した。

#### <出来事>

##### ●メドゥピ発電所初号機（ユニット6）の運転開始

2日、Eskom は、メドゥピ石炭火力発電所のユニット6の発電が開始された旨発表した。度重なる遅延や費用の超過に悩まされてきた南ア石炭火力発電所建設プロジェクトにとり、今回の発電開始は画期的な出来事となった。メドゥピ発電所では、今後、更に5つのユニットのタービンの同期および商業化が予定されている。他方、クシレ発電所では、全体で4800MW規模の6つのユニット（各800MW）を建設中である。クシレ発電所のユニット1のタービンの同期時期は、2017年前半を予定しており、商業運転開始時期については同年後半になる予定である。

##### ●南ア国債の格付け維持

10日、格付け会社の1つであるスタンダード&プアーズ（S&P）社は、南ア国債の格付けが、少なくとも今後2年間、ジャンク・ボンドまで引き下げられない見込みである旨述べた。他方で、S&P社は、南ア政府が同国経済の低成長問題や、巨額に膨らむ経常収支赤字、公的機関の賃金の高さ、ESKOMをはじめとする公的企業の財政状況等の問題に取り組む必要がある旨付言し、ESKOMの電気供給能力や、公的機関の労使交渉等の今後の行方にも注目している旨述べた。S&P社は、昨年6月、南ア国債をジャンク・レベルの1つ上であるBBB-まで引き下げたが、同年12月には、今後の見通しをネガティブから安定へと変えた。同社の次回のレビューは、6月に行われる予定である。なお、フィッチ社も同様に6月にレビューを予定しているが、ムーディーズ社は、今後の予定を明示していない。

##### ●ESKOMを巡る問題

12日、ツォツィ Eskom 会長（Mr. Zola Tsotsi）は、昨年9月に現在のポストについたばかりのマトナ CEO を含む4名の上級幹部（執行委員）を3ヶ月の間一時的に解任し、その間に、Eskom の経営状況や課題について調査を行うこととなった旨発表した。一時的に解任されたのは、マトナ CEO の他、モレフェ財務担当部長（Ms. Tsholofelo Molefe）、マロカネ資本インフラ部長（Mr. Dan Marokane）、ココ商業・技術担当部長（Mr. Matshela Koko）。ツォツィ会長は、理事会における今回の一時的解任の決定に関し、幹部を告発するものではなく、また不正行為があったわけでもないと説明した。

19日、スタンダード&プアーズ（S&P）社は、12日の Eskom 幹部の一時的な解任が同社の信用を失わせたとし、Eskom 債の格付けを、投資適格債としては最低ランクとみなされるBBB-からBB+（S&Pによる長期格付けでジャンク・ボンドとみなされる）に引き下げた。また、S&P社は、仮に Eskom が政府保証を得られない場合、同社債の格付けが、さらにCCC+に引き下げられることとなる旨述べた。別の格付け会社であるムーディーズ社は、昨年既に Eskom の長期格付けをジャンク・ボンドに引

き下げていたが、今回の一件を受け、格付け評価がさらにネガティブになる旨警告した。

31日、Eskomは、ツォツィ会長が辞任し、ヌグバネ氏（Dr. Ben Ngubane）を会長代理（acting chairperson）として任命する旨発表した。Eskomが発表した声明では、今回の一連の動きは、Eskom理事会が同社に直面する課題への対処に注力し、同社が南ア国内のエネルギー需要に応え、関係者の信頼を取り戻すために取られたものである旨述べられている。

#### ●メドウピ発電所初号機（ユニット6）の運転開始

2日、Eskomは、メドウピ石炭火力発電所のユニット6の発電が開始された旨発表した。度重なる遅延や費用の超過に悩まされてきた南ア石炭火力発電所建設プロジェクトにとり、今回の発電開始は画期的な出来事となった。メドウピ発電所では、今後、更に5つのユニットのタービンの同期および商業化が予定されている。他方、クシレ発電所では、全体で4800MW規模の6つのユニット（各800MW）を建設中である。クシレ発電所のユニット1のタービンの同期時期は、2017年前半を予定しており、商業運転開始時期については同年後半になる予定である。

### 4 広報・文化

#### ●武道デモンストレーション

14日、ヨハネスブルグのウォータースランド（ヴィッツ）大学内のオールド・ミューチュアル・スポーツホールで武道デモンストレーションが開催された。当日は、居合道、琉球古武術、剣道、合気道、柔道及び弓道の各団体から、南アフリカを代表する武道家によるデモンストレーションが行われ、その迫力に多くの観客から賞賛がもたらされた。

### 5 警備

#### ●南ア・テロ情勢について

昨年11月に発表された「グローバル・テロリズム・インデックス2014」において、南アは2010年の140位（162ヶ国中）から48位にまで上昇した。近年、南ア国内、とりわけビジネス分野において、資金活動等を目的とする過激派組織の浸透が示唆されているところ、これがテロの脅威度指数を引き上げた要因の一つと考えられる。

南ア政府は、対テロ戦争という大義名分の下、アメリカ政府及びその有志連合と足並みを揃えることなく、また、ソマリアにおける平和維持活動、ナイジェリアにおけるボコ・ハラム掃討作戦等への軍事支援にも関与していない。従来、国際テロの脅威を自国に関わりのある問題として捉えず、ISIL やアルカイダなどの過激派組織によるテロ攻撃になるおそれもないとされていたが、最近の調査結果から、国内ムスリム・コミュニティから ISIL の戦闘に参加する南ア人ムスリムが確認されている。戦闘に加勢した者が帰国後にテロ行為に及ぶ可能性については、国内に宗派間の対立や ISIL に感化された動向等がこれまでのところ把握されていないこと、ISIL を支持する基盤が確認されていないことなどから、南ア国内における ISIL の脅威度は現段階においてそれほど高くないと言えるが、今後、アル・シャバーブやボコ・ハラム等の過激派組織を介して影響力を及ぼす可能性は否定できない。

（了）